

## MSY4-3

## 日本小児保健協会の取り組み方

加藤 則子

十文字学園女子大学 幼児教育学科

国民運動計画である健やか親子21が策定されて17年になるが、日本小児保健協会は健やか親子21推進協議会設置当初より参加団体として関わってきた。第1次の健やか親子21では、4つの主要課題が示されたが、本協会はそのうちのひとつである第4課題「子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減」に取り組む諸団体の幹事団体として取りまとめを行ってきた。第2次の健やか親子21が2014年に策定されると、推進協議会には、4つのテーマグループが設定され、本協会は第1テーマ「国民への普及啓発・情報発信等」、第2テーマ「育児支援等」第3テーマ「児童虐待防止・対応強化」に参画することとした。特に第2テーマグループでは、幹事団体を拝命し、テーマグループの活動の活性化を図ってきている。

第2次の推進協議会の取り組みの特徴の一つが、企業の参画を促すことである。このようにして活動を全国民に周知し、担い手となっていただけるよう、働きかける。また、健康長寿を延ばそう！アワードの母子保健部門が設けられ、毎年意欲的な団体が応募し、すぐれた取り組みをしている団体が受賞している。

健やか親子21推進協議会の発足以来年一回総会が行われている。毎年テーマグループから活動状況の報告があるが、29年度に関しては、厚生労働省から各グループで共通テーマを設定しての取り組みが提案された。健やか親子21(第2次)で提示された指標のうち、改善の余地があると選定された6指標を参考に、第2テーマグループ(育児支援等)では、「妊娠準備期からの児童虐待予防から十代の自殺予防に至るまでの切れ目ない支援」という共通テーマを設定し、多職種からなる専門家集団の強みを生かして講演会や研修会への講師派遣のデータベースを作成、運用とその評価を行っていく取り組みに関する計画が提案された。

このような流れに小児保健協会が効果的に関わってゆけるよう、健やか親子21対応委員会が協会内で組織され、機能強化が図られている。委員会は多職種からなり、健やか親子21推進協議会等の動きを共有し、厚生労働省での動きも確認しつつ、活発な意見交換が行われている。

健やか親子21のシンボルマーク「すこりん」の活用が望まれる。当協会主催のイベントのポスターや、学術集会での健やか親子関連演題のスライドやポスターには、積極的に「すこりん」が活用されるよう、働きかけていきたい。